HAKUOH JHS NEWS

白鷗大学足利中学校新聞　―vol.88―

■発行所／白鷗大学足利中学校新聞委員会　足利市伊勢南町4-3　TEL.0284-42-1131

最高の仲間

村里　夏菜

私の中学校生活の一番の思い出は、林間学校です。中でも、3年生の時に行った林間学校は、とても印象に残っています。その林間学校で私は、ウォークラリー実行委員会の委員長になりました。この年は、3年生の参加者が少なく、ウォークラリー実行委員には、3年生が3人しかいなかったので、最初はどうなるのかとても不安でした。でも、3人で協力し合って、1・2年生を支え、時には支えてもらいながら楽しく活動することができて、本当に良かったなと思いました。

ウォークラリー当日雨が降ってしまい、コースを変更することになってとても残念でしたが、ぬかるみの中、実行委員の皆で山を登っている時は終始笑顔が絶えず、とても楽しいと思いました。

卒業おめでとう

巣立つ45名の未来に輝かしい光あれ!!

総合優勝

石井　稀衣

中学校生活最後の林間学校で、最高の思い出を作ることができて、本当に良かったです。

中学校3年間の体育祭で一番思い出に残ったのは、3年生最後の体育祭です。上級生となって、初めて先輩たちの苦労や私たち3年生の団結力と協力性の大切さを実感しました。中学1年生の時から、「自分が3年生になったら組長をやりたい！」とずっと思っていたら、3年生になって赤組の組長をやることができました。最初は、緊張と不安で後輩たちにきちんと教えられるかと心配でした。だけど、そんな不安も練習を重ねるにつれて競技への挑戦心に変わり、チーム力がつきました。

本番では、今まで以上の緊張と不安がありましたが、一人ひとりがチームのことを考え、一致団結しました。そして、黄組と1点差で赤組が総合優勝することができました。今思うと最高のメンバーでした。忘れられない体育祭をありがとう。

皆でつかんだ最優秀

川俣　美陽

中学校生活最後の合唱祭は、私にとって忘れられないものとなりました。練習開始当初、私達の合唱は合唱と呼べないほどのレベルでした。特に課題曲「予感」は難易度が高く、音を覚えるだけでも一苦労。きちんと本番までに仕上げられるのか、と不安でいっぱいでした。しかし、HRや授業で練習を繰り返す内に皆の声は一つにまとまり、合唱の迫力も徐々に増してきました。毎日時間を目一杯使って練習をしたことで、自信もつきました。そして迎えた本番。今までの練習の成果を存分に発揮した私達3年1・3組の結果は最優秀。とても嬉しかったです。支えてくれた先生方。そして団結して頑張ったクラスメイト。皆でつかんだ最優秀の栄光は、私のかけがえのない思い出です。

思い出の卓球

金居　航平

私は、体育デーが一番感動し、心に残りました。最後の体育デーということで、1・2年生のときより多く、弟や友達と練習しました。特に、卓球の様々なサーブは、とても魅力的で重要性を感じ、インターネットで調べるなどして、サーブに重点を置きました。初めは、あまりラリーが続きませんでしたが、次第に、弟と強く打ち合うことができるようになり、上達を感じました。

そして、当日、私が特に感じたのは、応援の力でした。私は、テレビでサッカーの試合などを見て、ホームとアウェイとでは、本当に違うのかと疑問に思っていましたが、応援のおかげで、緊張も少なくなり、気持ち良くプレーをすることができ、応援の大切さを学べました。

さらに、練習したサーブでの得点がとても多かったので、功を奏したと思いました。体育デーで貴重な体験をすることができて良かったです。

オーストラリア

遠藤　千月瑠

中学校生活で一番印象に残ったことは、オーストラリアでの海外研修でした。自分自身この研修旅行が初めての海外旅行となったため、日本を出るときから初めての連続でしたが、特にホストファミリーとの3日間に及ぶ英語しか使えない生活は、私にとって試練でした。

しかしオーストラリアの大自然の中、毎日連れて行ってくれた海はすばらしく、ホストファミリーの優しい気持ちが伝わり、3日間友達と楽しく過ごせました。

お土産を買ったり、荷物を整えたり、飛行機の乗り方など、自分で考えて行動することもとても勉強になり、有意義な海外研修でした。

そしてもっと英語を勉強しようと改めて思いました。

白鷗中での3年間は、みんなと過ごした充実した時間で、たくさんの思い出をつくることができました。

白鷗中 川柳

いつまでも　続けばいいな　この幸せが
藍原　なずな

大人への　階段登る　中学生
齋藤　歩美

部活動　校庭何周　走ったかな
飯塚　洸太

初めての　温もり感じた　温便座
石井　龍

三年間　減るのは不安　増える友
大屋　範奈

一度だけ　行ってみたい　な　屋上に
松本　花

年越して　不安とズボン　が　でかくなる
神藤　慎吾

ボールくれ　俺は誰にも　止められね
田部井　涼

群馬から　栃木は案外　近かった
風間　春香

新入生　上履きの色　役に立つ
金居　航平

体育祭　毎年組長　怪我をする
阿部　奈々江

1年緑　2年も緑　3年赤組　総合優勝
石井　稀衣

引退後　理科室改装　なんでだよ
小谷　菜月

2年半　朝練　昼練　放課後　ナイター
篠崎　育美

桜見た　月日たどると　もう三年
吉田　かのん

人々の　笑い溢れる　昼休み
川俣　美陽

休ませて　県民の日に　授業あり
木村　実里

掲げよ！未来を照らすかがり火を
～卒業生の皆さんへ～

「好き」を生かせ

校長　堀口　智津子

人の才能が開花した時、その根底には「とにかくこれが好き」という強い気持ちがある。「好きこそものの上手なれ」の諺のように、好きだから努力を惜しまない。周囲から困難と思える事も苦にしない。ただ一心不乱に打ち込める。それがやがて才能の開花に繋がる。

昨年、超新星のように将棋界に現れた中学生棋士・藤井聡太さんの場合もそうだ。彼の母親によると、彼はとにかく将棋が好きで、とことん将棋に打ち込む生活を送っているらしい。将棋が強くなるには、努力と才能に加え、根性、負けん気、闘争心といった精神的な強さが必要だそうだが、彼は将棋に打ち込む生活から、精神的な強さも身に付けたように思う。

卒業生一人ひとりの内にも藤井さんに匹敵する才能がある。早くそれを見つけ、持てる才能を開花させて欲しいと願う。君たちの活躍を期待している。卒業おめでとう。

素直で謙虚な姿

学事顧問　奥澤　信行

ご卒業おめでとうございます。義務教育を終えて次の道に進まれる今だからこそ、皆さんに伝えたいことがあります。

世の中の仕組みが急激に変容していく時代にあって、人々の価値観も多様化し、物事に対する姿勢の是非を問うのが難しくなっています。最近は手抜きの対応で要領よく立ち回ることを是とする風潮がみられます。そして真摯に努力する姿勢を揶揄する嫌な空気を感じることが多いのです。

しかし教員生活を40年近く続けて、多くの生徒や学生を見てきた経験から、自分の希望する職業を選択できて、充実した社会生活を送っている皆さんの先輩たちに共通して言えるのは、目の前の事象に素直に向き合って、謙虚な姿勢で対応してきたということです。

周囲の環境がどう変わろうとも「素直で謙虚」な姿勢を貫いて、最終的に勝者となっていることを心に留めてください。

このことなら私だ

学事顧問　前川　晋

ご卒業おめでとうございます。中学校を卒業するということは、小学校入学から9年間の義務教育を終えるということです。義務教育においては文科省が策定する学習指導要領に従い、どの子にも同じ教育がなされます。しかし、これから進まれる高等学校、そして、大学においては、その学習内容を自ら選択することができます。自分の個性や能力などを考えて自分で自分の道を切り開いていかなければなりません。

人は何か一つ「このことなら私だ」とうものを持っていると、一生輝いて生きていくことができます。自分の趣味や特技、自分が興味を持っていることが生涯の仕事につながっていったら、どんなに素晴らしいことでしょう。

自分の個性や能力を見つめながら、未来を想像し「このことなら私だ」というものが持てるよう努力していってください。

ありがとう

教頭　山田　典之

「ありがとう」の反意語は何でしょう?これは、普段あまり考えたことのない疑問だと思います。答えは「当たり前」となるそうです。「ありがとう」は「有難し」という言葉が語源となっています。「有難し」の反対は「いつでも目にするもの」となり、よって、「当たり前」となります。ちなみに「当たり前」は、「当然」を「当前」と表記した誤用が元になっているとの説もあります。

私たちは人生をよりよく生きるため、誰もが人格の向上を目指しています。では、自分の人格は、何で判断すればいいのでしょうか。

人格は行動に表れます。普段「ありがとう」と言われるようなことほど、「当たり前」と言える位に自然と実践できることは、高い人格を示すものの一つであり、大切なことです。つまり、「ありがとう」は、今の自分がどの程度の人格かを知るバロメーターになります。

一生涯の仲間

学年主任　新井　重利

先日、20年ほど前の中等部の卒業生から連絡がありました。彼女は地元の桐生でフラ団体を主宰するフラダンサーで、今度ジャズ演奏者とのジョイントを行うので見に来てほしいとのこと。在学中元気だった彼女は、卒業後しばらくして体調を崩して「うつ」状態になってしまい、とても心配していました。そんな時に支えとなってくれたのが家族や中学時代の仲間で、時間はかかったけど以前の状態に戻っていると聞き、安心しました。特に中学時代の仲間は、親身になってくれるけど出すぎず、本人の気持ちの負担にならない配慮をしてくれ、いくら感謝してもしきれないし、そんな仲間を持てた自分は幸せだと言っていました。一生涯の大切な仲間を作れるのが学生時代、この3年間でそんな仲間を作れましたか。

力強く！前へ

一組　小林　由枝

ご卒業おめでとうございます。

保健の授業で学習しましたが、この中学生の時期は体も心もめざましく成長します。卒業生のみなさんも順調に成長をした3年間でした。体力テストの結果を振り返ってみました。一年生の時の記録がかわいく感じてしまいます。身体も心も成長して体力がつきました。「健康」は一生の宝です。何事にも一生懸命に取り組み、前向きに考えながら行動していました。頑張りが健康の良薬ですね。

「目標は一回でも多く口に出して文字にした方がいい」栃木県出身のロンドン五輪卓球銀メダリストの平野早矢香さんの言葉です。夢に向かって挑戦することが大切です。ここにも体力・気力が必要です。

これからは自分の足をしっかり地につけて力強く一歩一歩前に進んで行ってください。

行動力に自信を

二組　田中　淳史

卒業おめでとうございます。

早いもので白鷗中へ入学してから3年が過ぎようとしています。義務教育も終わりとなり、4月からは高校へ進学することになりますが、期待と不安でいっぱいの人もいることでしょう。しかし、高校では自信を持って取り組んで欲しいと思います。白鷗中で3年間学んだことに自信を持ってください。学習面はもちろんですが、学校行事などでもみんな自身が企画をし、運営をしてきました。みんなには行動力があります。その行動力を高校でも発揮してください。充実した高校3年間を過ごすために必要なものは、方法ではなく『行動力』です。

高校3年間を有意義にし、是非、自分の夢を叶えてください。みんなのこれからの活躍を期待しています。

勇気を持とう

三組　宮田　英史

国連発表の「幸福度ランキング」、日本は先進国で最下位…金はあり健康、不寛容で汚職が多い。という記事を見かけました。物が豊かになって得られる幸福感には限度がある。と言っている人もいます。

では物質以外で幸福になる方法は何か。一つは「他者への貢献」だそうです。自分にそんな力はないという人。心配はいりません。生きているだけであなたは誰かに貢献しているのだそうです。まず自分に価値があると思えることが大切。そう思えたら周りの人に親切にしてみる。「Ｇｉｖｅ＆Ｔａｋｅ」ではなく、「Ｇｉｖｅ＆Ｇｉｖｅ」の精神。幸せを家族、学校、職場、地域、国、世界の人々へと広げられる人になれたら素晴らしいですね。その為にはまず自分自身を一生懸命磨いて、多くの人を幸せにする力と勇気を持ってください。

「人生五訓」

副担任　坂本　匡弘

卒業おめでとうございます。副担任として1年という短い時間でしたが、楽しい時間を共に過ごせたことを大変嬉しく思っています。

昔は人生50年と言われていましたが、今は人生80年。みなさんは人生のだいたい1／5が過ぎたところです。これから先様々な喜び、悲しみ、苦しみを経験していくことになります。そんな皆さんに贈る言葉は「人生五訓」と呼ばれる5つの言葉です。「焦るな」「腐るな」「怒るな」「威張るな」「怠るな」これは以前先輩の先生に言われた言葉です。5つの失敗する要因をしないことで成功するという考え方です。毎日この言葉を胸に素晴らしい成人となることを期待しています。

卒業おめでとう　職員よりはなむけの言葉

ご卒業おめでとうございます。皆の夢や理想がどうなっていくのか、とても楽しみです。是非大きく成長して、機会があれば母校を訪ねてください。再会できる日を今から楽しみにしています。

増山　幸央

バブルは崩壊して初めてバブルだったと分かるといいます。白鷗中のよさも卒業して初めて分かるのかもしれませんね。白鷗中で学んだことを、今後の人生に役立ててこれからも輝き続けてください。

星野　進

ご卒業おめでとうございます。今後の人生において皆さんは多くの試練に出会います。しかし恐れないでください。つらくてもまずは笑い飛ばしてみて。その先には救いと成長が待っています。

宮谷　晴子

卒業おめでとう。昔から言われている言葉ですが、最近ではイチロー選手も同様の話をしています。「自分は天才ではないが、努力をする才能はある。」皆も努力次第で偉大な人物に・・・。

大平　洋一

1年生の頃が懐かしく思い出されます。あれから2年。心身ともに立派に成長した姿がとても頼もしく、誇らしいです。輝かしい未来への門出を心からお祝いします。卒業、おめでとう！

菊地　早苗

誰だって失敗はします。恥ずかしいことではありません。たくさんの恥をかいて味のあるひとになってください。卒業おめでとう!!

高井　俊幸

ご卒業おめでとうございます。皆さん一人一人がこれからも健康で自分の人生を大切に歩んでくれることを祈っています。そしていつか成長した皆さんの姿を見られることを楽しみにしています。

金井　弘枝

卒業おめでとう。プラスチックの自動車が登場する時代になりました。10年後はどんな世界になっているのでしょうか。卒業生の皆さん、どんどん勉強してもっと便利な日本にして下さい。

滝沢　悟

『私と小鳥と鈴と』

金子みすゞ

私が両手を広げてもお空はちっとも飛べないが、飛べる小鳥は私のように、地面を早く走れない。

私がからだをゆすっても、きれいな音は出ないけど、あの鳴る鈴は私のようにたくさん唄は知らないよ。

「小鳥と鈴と私と…みんなちがっていいんだね。

卒業おめでとう。」

外丸　幸子

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。みなさんの夢は何ですか。やると決めたからには、日本一、世界一を目指して頑張ってください。今後の更なる活躍を応援しています。

中島　久美子

仲間との友情を培った　部活動の思い出

バスケットボール部

とても充実していた部活動生活は、あっという間に過ぎてしまいました。その中から僕は、自分のことを支えてくれる人たちの大切さを身にしみて感じました。つらいことがあったら一緒に励ましあって、大会で勝てばみんなで大喜びしました。部長として悩みを抱えていたときにもチームのみんなのおかげでたくさん助けられました。そして部活をできることは当たり前でなく、顧問の先生や親の協力があってこそ部活動を続けることができました。部活を続けられる環境があったことに感謝して、支えてくれた人への感謝の気持ちを忘れずにいたいです。バスケ部のみんなと先生たちに出会えて僕は幸せです。最高の思い出をありがとうございました。

荒井　隆希

ソフトテニス部

私の部活動生活は、とても充実していました。当時は毎日忙しく、大変だと思っていましたが、今では懐かしく感じられます。私は部長に選ばれた時、仲間をうまくまとめられるかとても不安でした。喧嘩をすることもありました。しかし、大会に向けて一致団結し勝った時には、とてもうれしかったです。仲間と一つの目的を大成させるためにまっすぐに頑張る真の大切さを知りました。

ここまで私が成長できたのは同級生、後輩と切磋琢磨できたことと、小林先生のご指導のおかげです。私は、頼れるような部長ではなかったと思います。しかし、副部長をはじめ、協力し合えたことで楽しく充実した部活動生活を送ることができました。とても大切な思い出です。ありがとうございました。

古屋　朱萌

サッカー部

「諦めず努力し続けることにより、必ず結果が実を結ぶ」ということを私は部活動を通して学んだ。

3年生の引退後、部員9人で挑んだ新人戦。1回戦は突破し、2回戦は相手の攻撃に圧倒され、攻める余裕もなく大敗を喫してしまった。部長として何もできなかったことを情けなく感じ、自分が主体となりチームを引っ張っていきたいと思い、ランニングを始めた。

また、コーチの指導で体力の向上を図る練習を続けた結果、最後の大会では、1点も奪うことができなかった相手から3点を奪うことができた。これからも、どんな小さな結果だとしても、決して諦めず努力を続けることを大切にしていきたい。

阿部　由

科学部

今年はとても心配でした。

新入部員が何人入ってくれるのだろうか。もし、入ってくれなかったらどうしようといった心配の種が次々と出てきてしまいました。その際、きっと部員の方たちには迷惑をかけてしまったのではないかと思います。班別研究では、私が1年生の時に先輩が行っていた実験を発展させたものを行いました。しかし、自分の班に手いっぱいで別の班の進み具合を見られず、的確なアドバイスができなかったことが心残りです。

私が1年部長を務められた？のは顧問の先生、後輩たち、3年生のみなさんという力強い存在があったからです。それから、藍原副部長にはサポートをいつもしてもらいました。ありがとう。これからも楽しくて、ユーモアのあふれる安全な実験を行ってください。

小谷　菜月

文芸部

情けない話ではあるが、私にはこの学校に入学するのにあたって定まった目標や決意などなかった。そんな中、中途半端なわたしが見つけた居場所はあの少し散らかった文芸部室だった。今でも私を温かく迎えて下さった先輩方を思い出す。

しかし、文芸部とは、いまいち得体の知れない部活というイメージで見られていたようだ。私は本当に悔しかった。文芸部の良さを広く周囲にアピールしたくて、この2年半色々なことに挑戦し活動の幅を広げた。その一つひとつが私の大切な思い出である。

運動部と文化部はよく比較される。しかし私は、私の3年間は「校庭で汗を流して頑張っていた運動部に負けていなかったんだ。」と胸を張りたい。

下山　美都里

バレー同好会

バレーボール同好会で活動してきた3年間を振り返ってみると、さまざまなことがあったなと昨日のことのように思い出されます。

私が2年生の時に副会長になり、不安になったこと。部活動にするか本気で悩んだこと。後輩をたくさん叱ったこと。隣で一生懸命練習するバスケットボール部に迷惑をかけたこと。など思い出せばきりがありません。どれもすべていい思い出で、楽しかったと心の底から言えます。いまそう思えるのは、顧問の先生や部員たちの存在があったからです。本当にありがとうございました。

最後に、部員のみんな、最高の思い出をありがとう！1・2年生は持ち前の笑顔とガッツで頑張れ！

秋山　万鈴

野球同好会

私は野球部に入部し、技術だけでなく人として大切なことを学び、大きく成長することができました。

昔の私は、礼儀がなっていませんでした。しかし、野球部の先輩方はそういった当たり前のことを素晴らしくやっていました。先輩の姿を見て、自分の行動を改め、当たり前のことをしっかりやろうと思うようになりました。

野球部で学んだことを、これからの人生で活かしていきたいです。合同チームを組んでくださった校長先生、同好会になっても変わらず厚い指導をしてくださった顧問の高井先生、私を笑わせる後輩たち、本当にありがとうございました。

飯塚　洸太

下野新聞社主催第14回
「新聞を読んで」感想文コンクール入選

「伝える」ことの大切さ

2年　小暮　夏子

2017年8月10日木曜日　読売新聞

1972年8月9日今から27年前に長崎に原爆が投下された。

長崎原爆の日の翌日、8月10日の新聞には戦争に関するたくさんの記事が載っていたが、特にこの「被爆二世」と大きく書かれた記事が目に留まった。

語り部や平和運動を続ける下平さんは10歳の時に被爆し、親族3人を失った。さらには妹も後遺症などで失ったそうだ。下平さんの次女である浦頭さんは、母の経験を受け継ぎ被爆二世としてそんな浦頭さんは今年、水を求めながら亡くなった人々を悼む「献水」を担当したそうだ。

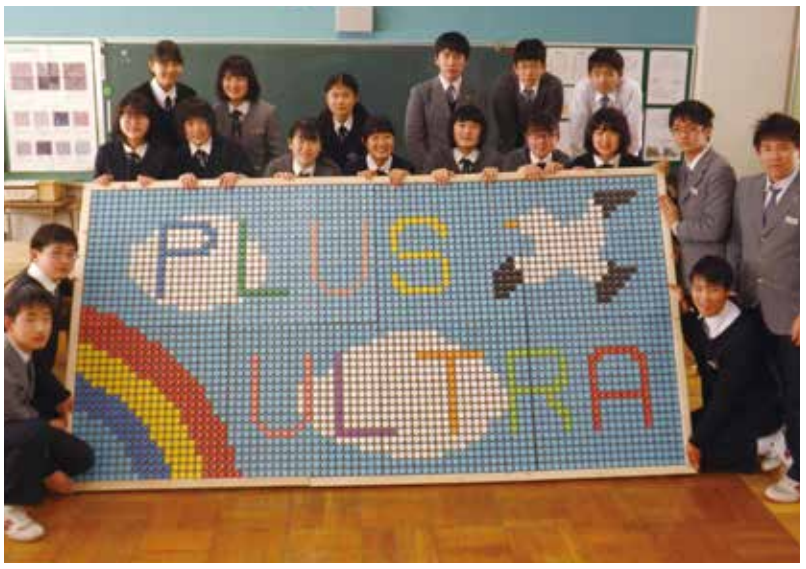
私たちは皆、「戦争はしてはいけないもの」という認識はあっても、具体的にどんなことがこの日本で起こったのか、戦争はどれだけ恐ろしいものなのかをしっかりと理解している人は数少ないだろう。そんな中で実際に原爆の被害にあった下平さんのような人が後世にその恐ろしさや平和の大切さを伝えていくことはとてもすばらしく、また大切なことだと思う。

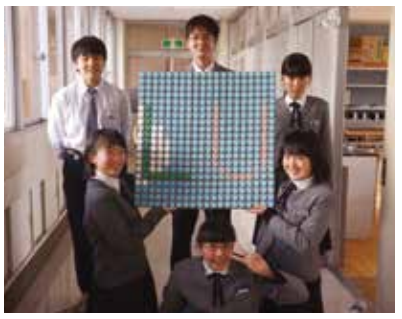
しかし、私たち若者はそのような大切なことを受け継ぐ遺志を持っているのだろうか。戦争の恐ろしさをしっかり伝えられるほどの知識を持っているのだろうか。実際、私には戦争を体験した祖母がいる。しかし、祖母から戦争の話を聞こうとしたことは一度もない。戦争を経験した人から話を聞くチャンスを無駄にしているのである。このような境遇の人は他にもいると思う。だがこの記事を読み、改めて伝えていくことの大切さを知った私は、祖母に経験したことについて電話をして、話を聞いた。教えてほしいと頼んだら快く答えてくれた。食べるものもなくてとても貧しい生活をしていたこと、毎日空襲を恐れながら暮らしていたこと…。祖母はたくさんの話を聞かせてくれた。思っていたより戦争は怖いものだと思った。祖母は、「戦争について知るのは大事なことだと思うよ。今度会ったときにはもっと詳しく教えてあげるよ。」と言ってくれた。祖母の話はとても現実的で心に残った。話を聞いているだけで怖くなったが、もっと知りたいと関心も出てきた。

祖母から話を聞いたことで更に伝えるべきことなんだなぁと思った。世界には今も戦争をしている国がたくさんある。それをなくすためにも、今私たちがするべきことを見失わずに動くことがとても大切だと思う。

私もこれから、戦争のことから目をそらさずに学び、伝えていけるようにしようと思う。

ペットボトルキャップアートが完成しました





3年生の卒業制作として、総合学習の時間を使って取り組んできました。

まず、ペットボトルのキャップを約4,000個、重さにして約9kgを集めるところから始めました。

その間にデザイン（金居航平君）を決定し、各班で担当するブロックを決めました。

卒業式や行事等での展示を予定していますので、是非ご覧ください。

立志式

やっと決まった夢

2年　遠藤　心美

私には夢があります。それは、獣医師になって多くの動物を元気にすることです。今までの私は、夢が変わることが多々ありました。しかし、職場体験で動物病院へ行き、「私は本当に獣医師になりたいんだ！」と確信しました。職場体験の際、入院して点滴をしている犬を見ました。少し痛々しい様子でしたが、ぐったりしていた状態から元気になる姿を目の当たりにした時、「すごい…」と心が揺らぎました。

さらに、手術を見学して、先生の手際の良い処置に感動しました。あっという間に傷口は閉じられ、あまりの速さに驚きました。言葉では会話ができない動物だからこそ、大切にしなくてはいけない事が沢山あるんだなと感じました。何年か前に家の犬も骨折をして手術をしたことがありました。そのときもすぐに治って走り回れるようになりました。

言葉が通じない動物たちを元気にする獣医師。興味のある職業から私がなりたい職業へと職場体験を通して大きく変化していきました。獣医師になるためには、大学で6年間獣医学を勉強し、国家試験を受け、獣医学の国家資格を取得しなければなりません。獣医学を勉強することができる大学は関東では東京や神奈川などにあると先生に教わりました。

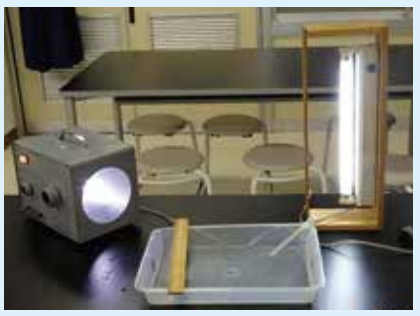
将来の方向性が定まりはじめ、行きたい大学も絞られてきました。だからこそ、希望の大学に行くために自分の実力を伸ばすことができる高校に進学したいと考えています。

今の私は以前までと違い、苦手教科にも目を背けず、しっかりと向き合うようになりました。今の努力はこれからの私を支えてくれる大きな力になると思っています。

また、勉強だけでなく、どんなに大変でも飼っている犬の世話はもちろん、様々な動物たちと触れ合う時間を大切にしていき、将来へ繋がる一歩を少しずつ歩んで行きたいと思います。

第71回足利市立学校理科研究展覧会・発表会において金賞を受賞しました。

【発表会の部金賞】
「ミルククラウンの研究」
〈科学部〉
2年　長島　知哉
2年　清水　陸
2年　髙村　浩嘉
2年　田鶴　大地
1年　照井　陽翔
1年　長谷川和哉



ミルククラウンとは牛乳などの少し粘性を持つ液体を入れたプラスチック容器に、スポイトでその液体を1滴ずつ落とすと、美しい王冠状の形を形成する現象である。このミルククラウンに興味をもち、水で実験の初期条件を調べて実験に入った。液体やその濃さを変えながら、根気よく実験をくり返し、多くのミルククラウンについて撮影に成功し、比較・検討した。

【展覧会の部金賞】
「DNAの抽出」
3年　齋藤　茉美

野菜や果物から抽出した白い綿状のDNAを酢酸カーミンで染色した。また、抽出したDNA溶液を酢酸カーミンで染色した溶液の色や抽出したDNA溶液の濁り具合を簡易吸光度計を用いて抽出したDNAの定量化を試みた。定量化の結果を踏まえて果物の皮、果肉、100%ジュースで、どの部分にDNAが多く含まれているかを調べた。

3-1 抽出したDNAの顕微鏡写真

写真1　染色前（低倍率）

写真2　染色後（高倍率）